

ヨーロッパ統合研究におけるコンストラクティヴィズム

筑波大学 東野篤子

はじめに EU 研究におけるコンストラクティヴィズムの席卷？

1. コンストラクティヴィズムを用いたヨーロッパ統合研究の主要テーマ
2. ヨーロッパ統合研究におけるコンストラクティヴィズム台頭の理由
3. 大論争：合理的選択論（リベラル政府間主義）からの挑戦？
4. 研究潮流の現在と問題点

おわりに

はじめに

- ・ ヨーロッパ統合研究におけるコンストラクティヴィズムの「流行」
- ・ 国際関係論における「コンストラクティヴィズムへの転回」(Checkel 1998)
- ・ ヨーロッパ統合研究への参入は 1990 年代後半 (c.f Wendt 1992)
- ・ Journal of European Public Policy の特別号 (1999) が大きな契機に。
- ・ (その間、国際関係論におけるコンストラクティヴィズムは「次の世代」へ？ (Fierke and Jørgensen eds. 2001))
- ・ ヨーロッパ統合研究における一大潮流に？ (Rosamond 2006; Pollack 2010)
- ・ 2011 年米国 EU 学会 (EUSA)、コンストラクティヴィズム関連のパネルは 37/142 (26%) ? ? ?

1. コンストラクティヴィズムを用いたヨーロッパ統合研究の主要テーマ

- ・ 行為主体と構造の相互構成性：e.g.)EU の条約や諸制度が行為主体の関心や規範に与える影響（再構築）あるいはその逆。諸制度とアイデンティティの相互作用
- ・ 社会的アイデンティティのヨーロッパ化
- ・ ヨーロッパのアイデンティティ構築における言説の役割
- ・ EU における様々なビジョンやアイデンティティの拮抗
- ・ EU の対外行動における規範とアイデンティティ

2. ヨーロッパ統合研究におけるコンストラクティヴィズム台頭の背景

- ・ (一見) 矛盾する 3 つの背景
 - ✓ 新機能主義とリベラル政府間主義の間の「大論争」：「偏狭かつ不毛」(Risse 2010)
コンストラクティヴィズムに対する二元論解消の期待？ (「中間地点を模索」 (Adler 1997))

- ✓ 地域統合に関する独自の理論では「ない」ことの魅力・使い勝手の良さ? : 理論ではなくアプローチ、存在論。ほとんどのヨーロッパ統合理論との組み合わせが可能 (Risse 2010; Elistrap-Sangiovanni 2006)。ただし、実際には立ち位置 (合理主義寄り or 内省主義寄り)、問題意識は様々。「偽りの団結?」
- ✓ 価値や規範の研究 : 多くの (伝統的) ヨーロッパ統合研究者の「直感」「郷愁」に訴える?
- ・ しかし「誰がコンストラクティヴィストなのか?」
 - ✓ コンストラクティヴィズムの「祖先」?
 - ✓ 「自己申告」のコンストラクティヴィストたち (米でも類似の状況? *Foreign Policy* 2012/1; 大矢根 2012)
 - ✓ コンストラクティヴィストに「される」人たち (Manners? Diez? Buzan& Waever?)

3 . 大論争 : 合理的選択論 (リベラル政府間主義) からの挑戦 ?

- ・ 「デンマークでなにかが腐っているぞ」 (Moravcsik 1999; also see Moravcsik 2001) : コンストラクティヴィズムに基づくヨーロッパ統合研究は「社会科学」ではない。また、コンストラクティヴィズム「でなくてはならない」理由がない。
- ・ そもそも「アイディアが重要である」ことは自明。しかし現在のコンストラクティヴィズムは「社会化と政策結果を結び付けるような『きめ細かな理論』」ではない。
- ・ 二通り (三通り?) の反応
 - ✓ そもそも (厳密な意味での) 「理論」であることは志向していない (Risse&Wiener)。他の理論に対する優位性も求めている (Jørgensen et al 2007; Risse 2010)
 - ✓ コンストラクティヴィズムが純粋な理論としての立場を確立していないのは事実。しかし、プロセス・トレーシングの方法論の精緻化によって改善が可能。 (インタビュー、メディア分析、非公式情報の精査) (Checkel and Moravcsik 2001)
 - ✓ 沈黙? ヨーロッパ統合研究におけるコンストラクティヴィズムの「あり方」についての議論は必ずしも活性化せず。細分化へ。

4 . 研究潮流の現在

・ コンストラクティヴィズムを用いたヨーロッパ統合研究の分類

伝統的	米国？	実証主義的 'Just-get-on-with-it'	規範、アイデンティティ	・ 因果関係の 追求 ・ 合理主義と 社会学の架橋
解釈的	ヨーロッ パ？	ポスト実証主義的	社会変容を促す言説の役割. EU の規範を可能とする ような言説上の実践	・ 因果関係は (ある程度) 不問？
批判的・ 革新的			権力と支配	・ 「あるべき」 姿の追求？

(出典： Checkel 2006 をもとに報告者作成)

- ・ EU 研究者 より広汎な IR におけるコンストラクティヴィズムの可能性の研究へと進出 (Fierke and Jørgensen eds. 2001) 執筆者 13 名、うち 5 名が EU 研究出身

おわりに

- ・ 日本の EU 研究におけるコンストラクティヴィズムのインパクト？
- ・ 歴史研究と理論研究の乖離 (c.f. 「潜在的な論争」田中 2009)
- ・ 統合史研究と理論研究の協働可能性？ (c.f. 「政治学と歴史学の協働可能性」遠藤 2011)

【参考文献】

Andreatta, Filippo (2011) 'The European Union's International Relations: A Theoretical View', in Christopher Hill and Michael Smith (eds.) *International Relations and the European Union*, 2nd edition, Oxford University Press.

Adler, Emmanuel (2002) 'Constructivism and International Relations', in Walter Carlsnaes, Thomas Risse and Beth A. Simmons (eds.) *Handbook of International Relations* (London: Sage Publications)

Checkel, Jeffery T. (1998) 'Review Article: The constructivist turn in international relations theory', *World Politics* 50:324-48.

Checkel, Jeffrey T. (2001) 'Why Comply?: Social Learning and European Identity

- Change,' *International Organization*, 55(3).
- Checkel, Jeffrey T. (2006) 'Constructivist approach to European Integration', *Arena Working Paper*, No. 6,
- Checkel, Jeffrey T. (2007) *International Institutions and Socialization in Europe*, Cambridge University Press.
- Checkel, Jeffrey T., and Andrew Moravcsik (2001) 'A Constructivist Research Program in EU Studies?: Forum Debate,' *European Union Politics*, 2(2).
- Christiansen, Thomas, Knud Erik Jorgensen and Antje Wiener (eds.) (2001) *The Social Construction of Europe*, Sage Publishers
- Fierke, Karin M., and Knud Erik Jorgensen, eds. (2001) *Constructing International Relations: the Next Generation*, M. E. Sharpe.
- Haas, Ernst B. (2001) 'Does Constructivism subsume Neo-functionalism?' , in Thomas Christiansen, Knud Erik Jørgensen and Antje Wiener (eds.), *The Social Construction of Europe* (London: Sage Publications)
- Guzzini, Stefano (2000) 'A reconstruction of constructivism in international relations', *European Journal of International Relations*, 6(2): 147-82.
- Marcussen, Martin *et al.* (2001) 'Constructing Europe? The Evolution of Nation-State Identities', in Thomas Christiansen, Knud Erik Jorgensen and Antje Wiener (eds.) *The Social Construction of Europe*.
- Milward, Alan S. (1993) *The European Rescue of the Nation-State*, Routledge.
- Moravcsik, Andrew (1998) *The Choice for Europe: Social Purpose and State Power from Messina to Maastricht*. UCL Press.
- Moravcsik, Andrew (1999) 'Is There Something Rotten in the State of Denmark?' Constructivism and European Integration. *Journal of European Public Policy* 6(4): 669-681.
- Moravcsik, Andrew and Milada Anna Vachudova (2003) 'National Interests, State Power, and EU Enlargement', *East European Politics and Societies*, 17(1), 42-57.
- Risse, Thomas (2000) "Let's Argue!": Communicative Action in World Politics', *International Organization*, 54(1): 1-39.
- Schimmelfenig, Frank (2003) *The EU, NATO and the Integration of Europe: Rules and Rhetoric*. Cambridge University Press.
- Schimmelfenig, Frank (2009) 'Entrapped again: The way to EU membership negotiations with Turkey', *International Politics*, 46: 413-431.
- Schmidt, Vivien (2000) 'Democracy and Discourse in an Integrating Europe and a Globalising World', *European Law Journal*, 6(3): 277-300.
- Thomas, Daniel C. (2011) 'Explaining EU Foreign Policy: Normative Institutionalism

- and Alternative Approaches', in Daniel C. Thomas (ed.) *Making EU Foreign Policy: National Preference, European Norms and Common Policies*. Palgrave.
- Wendt, Alexander (1992) 'Anarchy Is What States Make of It: The Social Construction of Power Politics,' *International Organization*, 46(2)
- 臼井陽一郎 (2007) 「EU ガバナンスの研究と言説構成論の試み」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』10
- 遠藤乾 (2011) 「ヨーロッパ統合史のフロンティア EU ヒストリオグラフィーの構築に向けて」遠藤乾・板橋拓己編『複数のヨーロッパ 欧州統合史のフロンティア』、北海道大学出版会
- 大矢根聡 (2005) 「コンストラクティヴィズムの視座と分析 規範の衝突・調整の実証的分析へ」『国際政治』143 号
- 大矢根聡 (2012) 「コンストラクティヴィズムから見る国際関係」大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係』有斐閣 (近刊)
- 鈴木一人 (2009) 「構成主義的政策決定過程分析としての「政策論理」」小野耕二 編『構成主義的政治理論と比較政治』ミネルヴァ書房
- 田中明彦 (2009) 「日本の国際政治学 『棲み分け』を超えて」『日本の国際政治学 第 1 巻 学としての国際政治』有斐閣
- 塚田鉄也 (2009a) 「ヨーロッパの構築における共同体の問題 (一)」『法学論叢』第 165 巻 第 2 号
- 塚田鉄也 (2009b) 「ヨーロッパの構築における共同体の問題 (二)」同、第 165 巻第 6 号
- 塚田鉄也 (2009c) 「ヨーロッパの構築における共同体の問題 (三)」同、第 166 巻第 2 号
- 中村英俊 (2010) 「地域機構と『戦争の不在』 E・ハースと J・ナイの比較地域統合論」山本武彦編著『国際関係論のニュー・フロンティア』成文堂。
- ディーズ・T、A・ヴィーナー (2010) 『ヨーロッパ統合の理論』勁草書房。
- 東野篤子 (2012) 「対外支援」大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係』有斐閣
- 宮岡勲 (2009) 「コンストラクティビズム 実証研究の方法論的課題」『日本の国際政治学 第 1 巻 学としての国際政治』有斐閣 (近刊)
- 森井裕一 (1998) 「欧州議会の直接選挙とドイツの統合政策 構成主義アプローチによる直接選挙導入過程分析」『政策科学・国際関係論集』第 1 号
- 鶴岡路人 (2011) 「欧州統合における共通外交・安全保障・防衛政策 政府間主義とその変容」『日本 EU 学会年報』第 31 号。
- 西村めぐみ 『規範と国家アイデンティティの形成 OSCE の紛争予防・危機管理と規範をめぐる政治過程』多賀出版、2000 年。